



二宮康明の紙飛行機最終回スペシャル企画

かみ

ひ

こう

き

文／編集部

# 紙飛行機の

キミが知らない

# ひみつ

巻頭でお伝えした通り、今号をもって49年の連載に幕を閉じる「二宮康明のよく飛ぶ紙飛行機」。二宮先生の思いと技を伝承してほしいすべてのKoKa読者に、3~5ページの記事に続いて、高性能紙飛行機のひみつを教えてください。



二宮先生が小学3年生のころにつくった紙飛行機を後に復元した復元機 (N-1710)。

4歳のころの二宮先生。当時から飛行機が大好きだった。(渡邊真也氏提供)

## Part 1

# 二宮康明先生と紙飛行機の歴史

## 敗戦後、飛行機が禁止に…

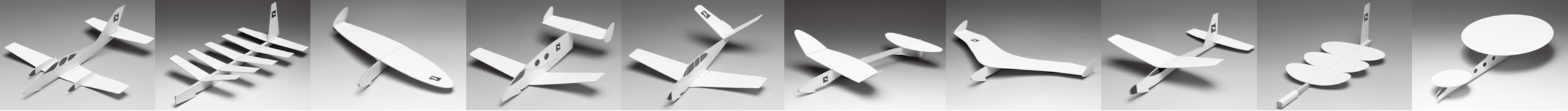
二宮先生は1926年(大正15年)、仙台で生まれました。上の写真は4歳の先生。すでに模型飛行機を持っている! 小学校3年生のころには、オリジナルの紙飛行機をつくって、机に飾っていたそうです(上の写真は当時の機体を後に復元したもの)。中学生になると、飛行機への憧れは本格化し、航空研究会に所属して飛行の原理を勉強したり、本物のグライダーを使った訓練を行ったりしていました。

そしてこのころには、ケント紙を何枚も貼り合



先生が小学生当時のKoKaに掲載されている最新飛行機の記事(1936年9月号)。二宮先生もKoKa読者だった!





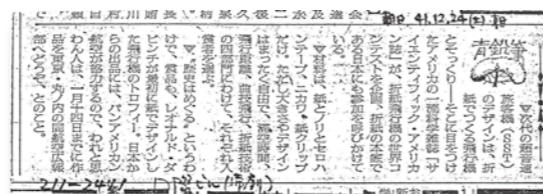
軽飛行機の操縦訓練中、初めてのソロ（1人での操縦）に出かけるときに撮影。



1967年、NHKにてグランプリのカップとともに写る二宮先生と奥様。カップについているもじゃもじゃしたものは、飛んだ距離を示すテープ。



グランプリを獲得した紙飛行機。これと同型の機は、新10機選シリーズの第4集の特別付録として収録している。



1966年12月24日（土）の朝日新聞朝刊「青鉛筆」欄。

目に焼きついている」と二宮先生。同年8月15日、日本は敗戦。そして、日本は一切の航空関係の業務が禁止されてしまいます。

二宮先生が進学したかった大学の航空学科もなくなってしまい、かわりに無線技術を学ぶ東北大学の通信工学科に進みました。通信を選んだ理由は、「電波も空を飛べるから」。

## 世界大会グランプリ!

1951年（昭和26年）、大学を卒業すると、電気通信省（現NTT）の研究所に就職し、無線の仕事に従事します。その翌年、日本の航空業務が再開され、航空ショーを見たり、ラジコン飛行機を自作したり、先生は再び飛行機を楽しむようになります。そしてついに1966年（昭和41年）には家用飛行機の操縦士の免許を取って、軽飛行機の操縦をすることが叶いました。

その年、先生の奥様が朝日新聞の「青鉛筆」と

いう小さい欄に、ある記事を見つけたのです。それは「アメリカで世界初の国際紙飛行機大会の開催が予定されていて、参加者を募集している」というもの。先生は中学生のころを思い出し、競技用機的设计を始めました。

そして1967年（昭和42年）、仕上がった紙飛行機を会場に送り、代理の人が大会で飛ばすと、全4種目中、滞空時間、飛行距離の2種目で1位となり、グランプリを獲得したのです。

4ページで紹介した通り、これをきっかけにKoKaでの紙飛行機付録の連載が始まります。

## 累計500万部の大ヒット!

KoKaに毎号掲載されるバラエティ豊かな紙飛行機は、空へ憧れを持つ子供たちの間でたちまち話題となり、これがまとめられた単行本が大ヒット。これまで出た切りぬく本シリーズの累計は500万部を超えています。今年7月にも、最新作『新10機選7二宮康明の紙飛行機集 よく飛ぶ競技用機Ⅲ』が発売されました。

また、1980年（昭和55年）からは書籍だけではなく、ハサミを必要としない手軽な紙飛行機キット「ホホワイトウイングス」もリリース。今も全国の模型店などで売られ、高性能紙飛行機の入門キットとして愛されています。

1985年（昭和60年）からは、日本で初めて紙飛行機の全国大会を開催することに。この主催団体として日本紙飛行機協会を設立し、会長に



先生の仕事場。天井には紙飛行機がびっしり吊り下げられている。（1977年、編集部撮影）

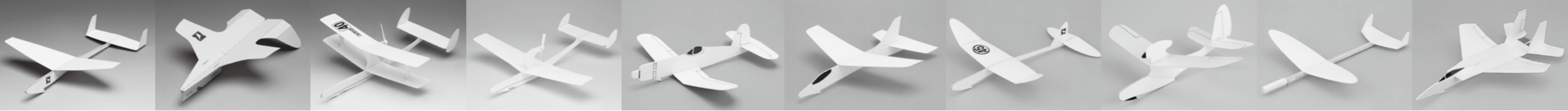
就任。日本航空（JAL）の協力を得て、「第1回JALカップ紙飛行機大会」が開催されました。この大会は今も「二宮康明杯 全日本紙飛行機選手権大会」として開催され、子供からお年寄りまで一緒になって、滞空時間を競って楽しんでます。

## 世代を超え、一緒に空を見上げる大会



KoKaに掲載された第1回JALカップの様子。今年の紙飛行機選手権大会は11月6日（日）、武蔵野中央公園で開催される。詳細は協会のWEBサイト（<http://www.kamihikouki.jp/>）を見よう。

日本紙飛行機協会 事務局長 荒木敏彦さん  
1984年10月、二宮先生と私は東京平河町の木村秀政博士のオフィスを訪ね、日本紙飛行機協会の設立の趣旨をご説明し名譽顧問にご就任いただきました。そして木村先生のご意向で入会金、会費のない協会ができました。協会の目的は、紙飛行機を通じて自然と親しむこと、科学する心を養うこと、そして世代を超えた交流です。  
主催する競技大会では、年配の方も子供も笑顔がたえません。競う場でありながら、子供たちはベテランからアドバイスをもらって、大空高く見事に滑空すると、お互い喜び合って楽しむ大会。この二宮先生がつくり上げた大会のコンセプトは、30年前も同じです。  
今回で子供の科学の連載は終わりますが、二宮ブレインは不滅です。書店に並ぶ先生の紙飛行機集をつかって飛ばし、紙飛行機に魅了された人たちが大会に集まって、一緒に空を見上げる姿がこれからも続くことを期待します。



## 原っぱに集まれ!

東京都武蔵野市に、1989年(平成元年)に誕生した“紙飛行機の聖地”ともいわれる武蔵野中央公園があります。ここでは毎日のように、紙飛行機を飛ばしにやって来る人がたくさんいます。二宮先生もその1人。

昔は、何もない広い原っぱがたくさんあって、



東京都立武蔵野中央公園の航空写真。紙飛行機を飛ばせる原っぱ公園として親しまれている。

## Part 2

# 二宮先生の紙飛行機はココがすごい!

## 性能だけでなく美しさも

二宮先生がこれまで設計した紙飛行機は、およそ3000機。今月の紙飛行機にもついている「N-3040」というのは、これまで設計してきた機体すべてに共通の通し番号です。

番号がつけられた機種はすべて、先生が原っぱでテスト飛行を繰り返し、よく飛ぶ形に仕上げたもの。このページに並んだ機体を見ても、その形状は実にさまざまで、しかもどれも一定の高性能を実現しているのです。また、先生が「紙飛行機は性能だけでなく、美しさも必要」とおっしゃるように、洗練されたデザインも二宮式紙飛行機の大きな魅力となっています。

紙飛行機を飛ばす場所に苦労しませんでした。しかし日本が発展するとともに、ビルや住宅がすき間なく立ち並び、公園などの施設も充実して、何もない原っぱは姿を消していきます。

武蔵野中央公園は、二宮先生が中心となって働きかけ、「何もない広い原っぱ」を残した貴重な場所なのです。先ほど紹介した全国大会もここで開催されています。

2013年(平成25年)には、「子供の科学の紙飛行機付録連載を45年にわたって続けた功績」が評価され、吉川英治文化賞を受賞。授賞式の様子は「コカねっと!」(www.kodomonokagaku.com)でWEB公開しています。

そして2016年8月、二宮先生のご希望により、今号をもって連載は最終回を迎えました。



翼の微調整をするところ。先生が調整すると、紙飛行機が見事によく飛ぶ。

## 調整が7割

うまく飛ばない人に先生はよく、「つくるのが3割、調整が7割」とアドバイスします。きれいにつくるのはもちろん大事なのですが、もっと大切なのが、テスト飛行を繰り返して、胴体の曲がりや直し、翼の角度などの微調整を行うことです。

翼の角度を変えることで飛び方が変わる原理は、実物の飛行機と同じ。先生の調整はまさに、



寄稿いただいた町田さんは「よく飛ぶ紙飛行機への道」という紙飛行機の考察や資料をまとめたエッセイを発表。日本紙飛行機協会のホームページに掲載されているから、紙飛行機について深く知りたい人は読んでみよう。

## 世界一よく飛び、美しい紙飛行機

私が二宮先生の紙飛行機に出会ったのは40年以上前で、小学生のときからのファン。二宮先生の紙飛行機は白い紙を生かしたデザインが特徴です。派手な色や模様など不要で、その美しさは世界一です。しかもそれぞれの機体の主翼や尾翼の形と大きさ、重心位置などにすべて意味があり、実際に世界一よく飛ぶのです。ひとつひとつの紙飛行機のデザインは、それ自体が二宮先生からみなさんへのメッセージです。みなさんが自分の手で二宮先生の紙飛行機をつくってみれば、ゲーム機で遊ぶのと違って、工作と調整にある程度の工夫や忍耐が必要なことがわかるでしょう。だからこそ、自分でつくった紙飛行機がよく飛んだときの喜びと感動は、他の遊びにはない大きなものになります。その経験はみなさんの心と体を育て、将来みなさんの宝物になるでしょう。二宮先生の紙飛行機をたくさんつくって飛ばして、自分だけの宝物(経験)を手に入れてください。

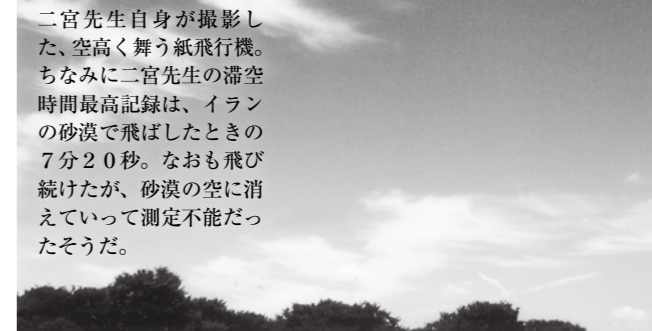
紙飛行機コレクター  
町田伸生さん

紙飛行機を操縦していることと同じなのです。実物機では、操縦ハンドルを使って方向舵、昇降舵、補助翼などを調整しますが、これを指の先で行っているというわけです。

## 神技を継承する

二宮先生が築き上げてきた紙飛行機の設計や製作、調整の技術は、日本で生まれ育ったオリジナルのものです。KoKaの連載は今回で終わりますが、先生の夢を引き継いで、もっとよく改良した紙飛行機を設計していくのは、これを読んでいるみんななのです。

今月号の型紙をめくったところに、二宮先生の著書が紹介されています。これらを読んで研究して、ぜひ二宮先生の性能を超える紙飛行機を設計してください。いつかKoKaに、キミが設計した紙飛行機が載ることを期待しています!



二宮先生自身が撮影した、空高く舞う紙飛行機。ちなみに二宮先生の滞空時間最高記録は、イランの砂漠で飛ばしたときの7分20秒。なおも飛び続けたが、砂漠の空に消えていって測定不能だったそうだ。

## 仙台で二宮先生の作品に会える

仙台紙飛行機を飛ばす会 那須博さん  
私は二宮先生の地元・仙台の「仙台紙飛行機を飛ばす会」で、紙飛行機教室などの普及活動をしており、紙飛行機の魅力は、つくる楽しさ、飛ばす喜び、工夫するおもしろさを身近に体験できる場所です。完成して、子供たちが青空に向かって飛ばしたときの「わあ、飛んだ飛んだ」という声を聞くと、自分が初めてつくって飛ばしたときのことを思い出してうれしくなります。このたび、二宮先生の作品や貴重な資料の数々が、仙台市科学館に寄贈され、展示されることになりました。地元愛好家にとっても大きな喜びであり、いつでも先生の作品に会うことができるのも楽しみです。仙台紙飛行機を飛ばす会は、仙台市科学館に近い七北田公園で、小学生から80代の方まで一緒に楽しんでいます。みなさんもぜひ、先生の作品を見に仙台市科学館を訪ねてください。一緒に大空に夢を飛ばしてみませんか?



スリーエム仙台市科学館に寄贈された先生の作品の数々。7月に展示がスタートした。2017年には仙台で全日本紙飛行機選手権大会の決勝大会を開催する計画が進められているそうだ。